

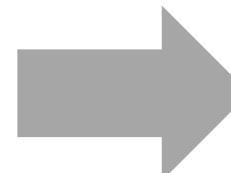
重大事故対策 – 複合災害や夜間ににおける重大事故対策の成立性・有効性 –



ワーキングの詳細
はちらから

論点No.135

自然災害と同時に重大事故が発生した場合や、悪天候時、夜間に重大事故が発生した場合でも想定どおりに事故対応できるのか。



第24回ワーキング
(2023.7.6) で議論

ワーキングチーム検証結果

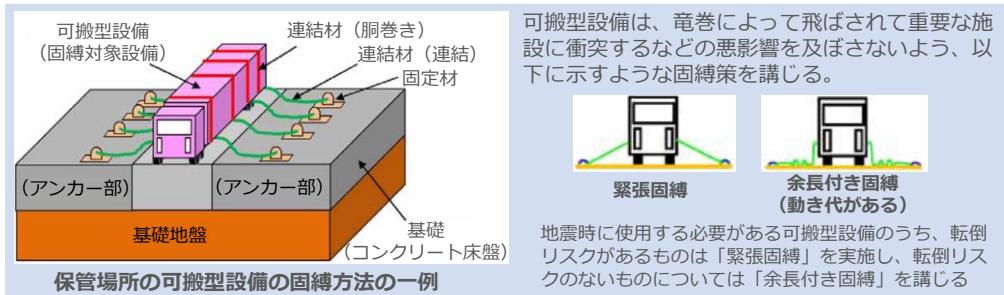
可搬型設備を含む重大事故等対処設備は、地震や津波、竜巻などの自然災害発生時にも使用可能な設計としていること、また、夜間や悪天候を想定した訓練を実施していることなどを確認。

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

○可搬型重大事故等対処設備の自然災害時の展開

- 可搬型重大事故等対処設備は、想定される自然現象への対策を講じたうえで保管を行うとともに、すべての設備が一度に機能を喪失しないよう保管場所は複数設け、かつ、それぞれ十分離隔する等の対策を講じる。
- 可搬型設備を展開するためのアクセスルートは、設計上想定する地震により影響を受けないルートを設定するとともに、使用不可になった場合に備え、複数のルートを設定。

保管場所の可搬型設備等の固縛



自然現象への対策を講じた保管の例

○夜間や悪天候を想定した訓練の実施

- 夜間の訓練や降雨・降雪などの悪天候を考慮した訓練のほか、高線量下での対応を想定した訓練など、様々な状況を想定した訓練を実施。
- 訓練により、悪条件が操作者の操作や操作時間に有意な影響を及ぼさないことを確認。
- 要員が満遍なく各訓練を経験できるように訓練計画を策定。

悪天候（降雨時）の訓練例



悪天候等を想定した訓練の例

可搬型照明を用いた訓練例



車両に備え付けられた照明を活用し作業を実施するため、作業環境は暗所とはならない。



作業環境が暗所の場合には、LEDライトやヘッドライトを携行し、作業環境の照明を確保して作業に当たる。また、要員は訓練を通じて作業を習熟させる。